



BIKE-O
&COMPANY
株式会社 バイク王 & カンパニー

2014年11月期
第2四半期決算説明資料

2013.12.1-2014.5.31

売上高20,150百万円(2013年11月期)

【バイク小売事業】～第二の収益の柱として育成～

売上高(セグメント間取引消去前)5,401百万円 構成比23.2%

- ・直営の小売販売店「バイク王ダイレクトSHOP」を展開
主に「バイク王」において買い取った中古バイクを
「バイク王ダイレクトSHOP」もしくはWEBを通じて販売
- ・WEBショップ「バイク王パーツSHOP」でバイクパーツ
を販売

【駐車場事業】～バイクユーザーの利用環境整備～

売上高(セグメント間取引消去前)779百万円 構成比3.3%

- ・バイク駐車場、自動車駐車場、
バイクと自動車の併設駐車場等を展開

【バイク買取事業】～当社のコアビジネス～

売上高(セグメント間取引消去前)17,142百万円 構成比73.5%

- ・買取専門店「バイク王」を全国に展開
TV、WEB等の各媒体で広告宣伝活動を展開し、バイクを買取・仕入
これらを主にバイクオークションを通じて売却、一部を当社運営の小売販売店にて販売

【個別】	2014年11月期 第2四半期(累計) 業績の概況	P.4
【セグメント別】	2014年11月期 第2四半期(累計) 業績の概況	P.10
【個別】	2014年11月期 第2四半期(累計) 財政状態	P.14
【個別】	2014年11月期 通期見通し/配当について	P.17
【参考資料】	今後の展開、会社概要、ビジネスモデル等	P.22

(注) 原則として表示金額については百万円未満切捨てで表示しております。



BIKE-O
&COMPANY

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| 【個別】 | 2014年11月期 第2四半期(累計) 業績の概況 |
| 【セグメント別】 | 2014年11月期 第2四半期(累計) 業績の概況 |
| 【個別】 | 2014年11月期 第2四半期(累計) 財政状態 |
| 【個別】 | 2014年11月期 通期見通し/配当について |
| 【参考資料】 | 今後の展開、会社概要、ビジネスモデル等 |
-
-

●バイク買取事業

今期方針：中長期的に安定した収益が見込める体制の構築

- ・販売台数は前年同期をやや下回ったが、平均売上単価が前年同期をやや上回ったことから、売上高はほぼ前年同期並み
- ・経常利益は、販売費及び一般管理費の抑制により前年同期を上回った

●バイク小売事業

今期方針：事業運営基盤強化を推進し、店舗収益の安定化を図る

- ・販売台数、平均粗利額は前年同期を下回った

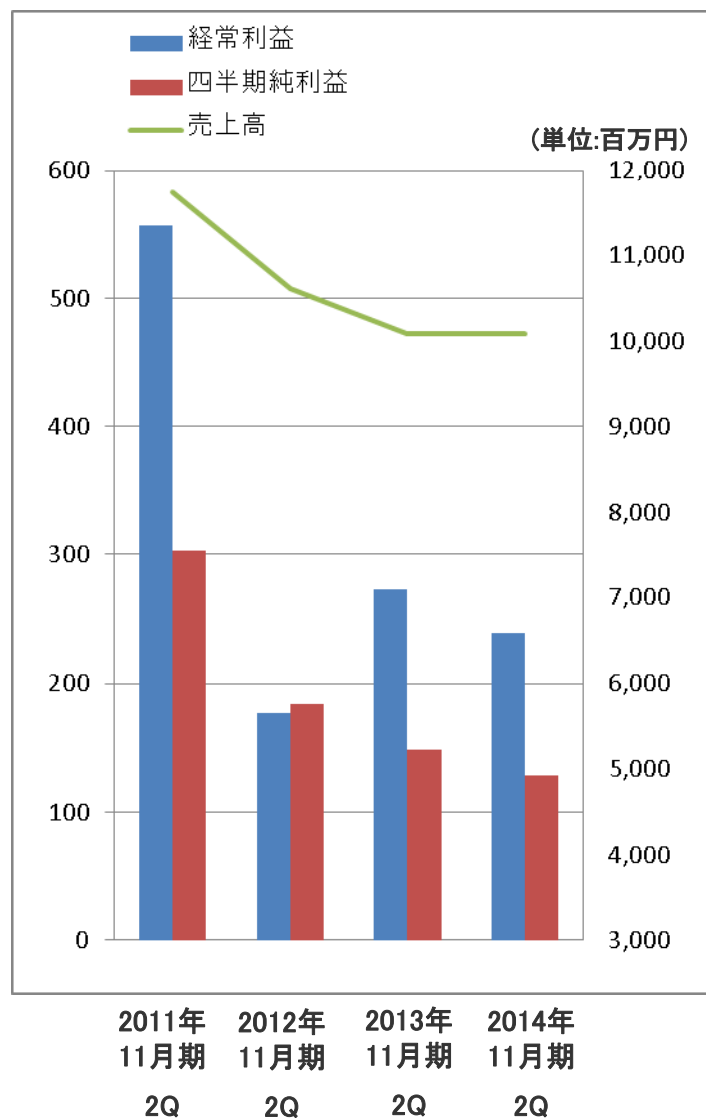
●駐車場事業

今期方針：既存事業地の収益力向上と新規事業地の開発推進

- ・堅調に推移し増収

2014年11月期第2四半期(累計) 損益計算書

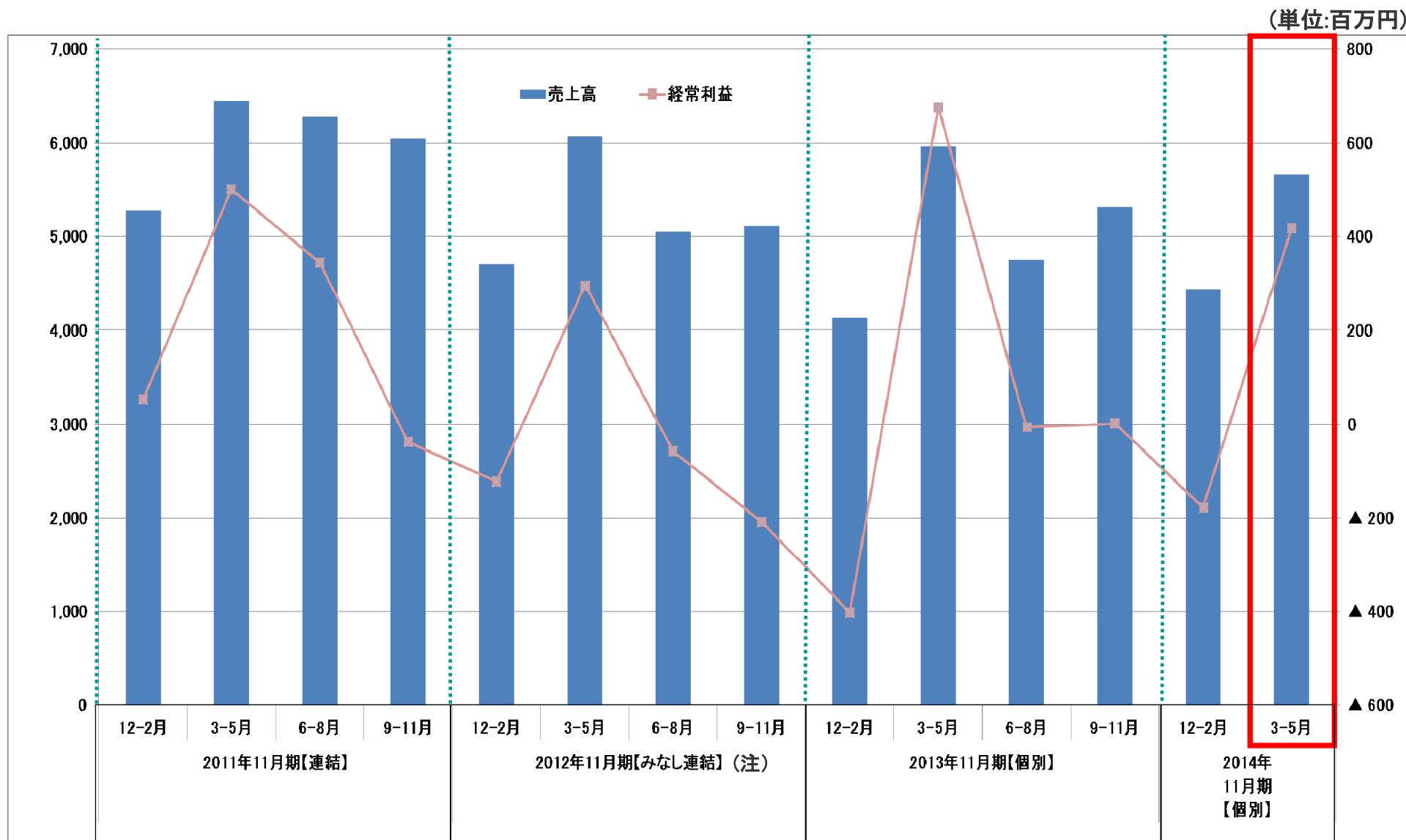
(単位:百万円)



	2013年 11月期 2Q(累計)	2014年 11月期 2Q(累計)	増減額	増減率
売上高	10,090	10,093	2	0.0%
バイク買取事業	8,640	8,622	▲17	▲0.2%
バイク小売事業	2,542	2,346	▲195	▲7.7%
駐車場事業	371	399	27	7.5%
内部消去(注)	▲1,463	▲1,275	187	-
売上原価	4,451	4,914	462	10.4%
売上総利益	5,638	5,179	▲459	▲8.2%
販管費	5,450	5,022	▲428	▲7.9%
営業利益	188	156	▲31	▲16.5%
経常利益	273	239	▲33	▲12.3%
バイク買取事業	144	234	90	62.3%
バイク小売事業	110	3	▲106	▲96.9%
駐車場事業	18	1	▲16	▲90.3%
四半期純利益	148	129	▲19	▲13.3%

(注)セグメント間取引消去

四半期毎の売上高&経常利益



(注) 当社は2012年3月1日付で連結子会社である株式会社パーク王を吸収合併し、非連結会社へ移行しておりますが、比較可能性を担保するためパーク王10実績を含む【みなし連結】をご参考として記載しております。

四半期毎の業績



(単位:百万円)

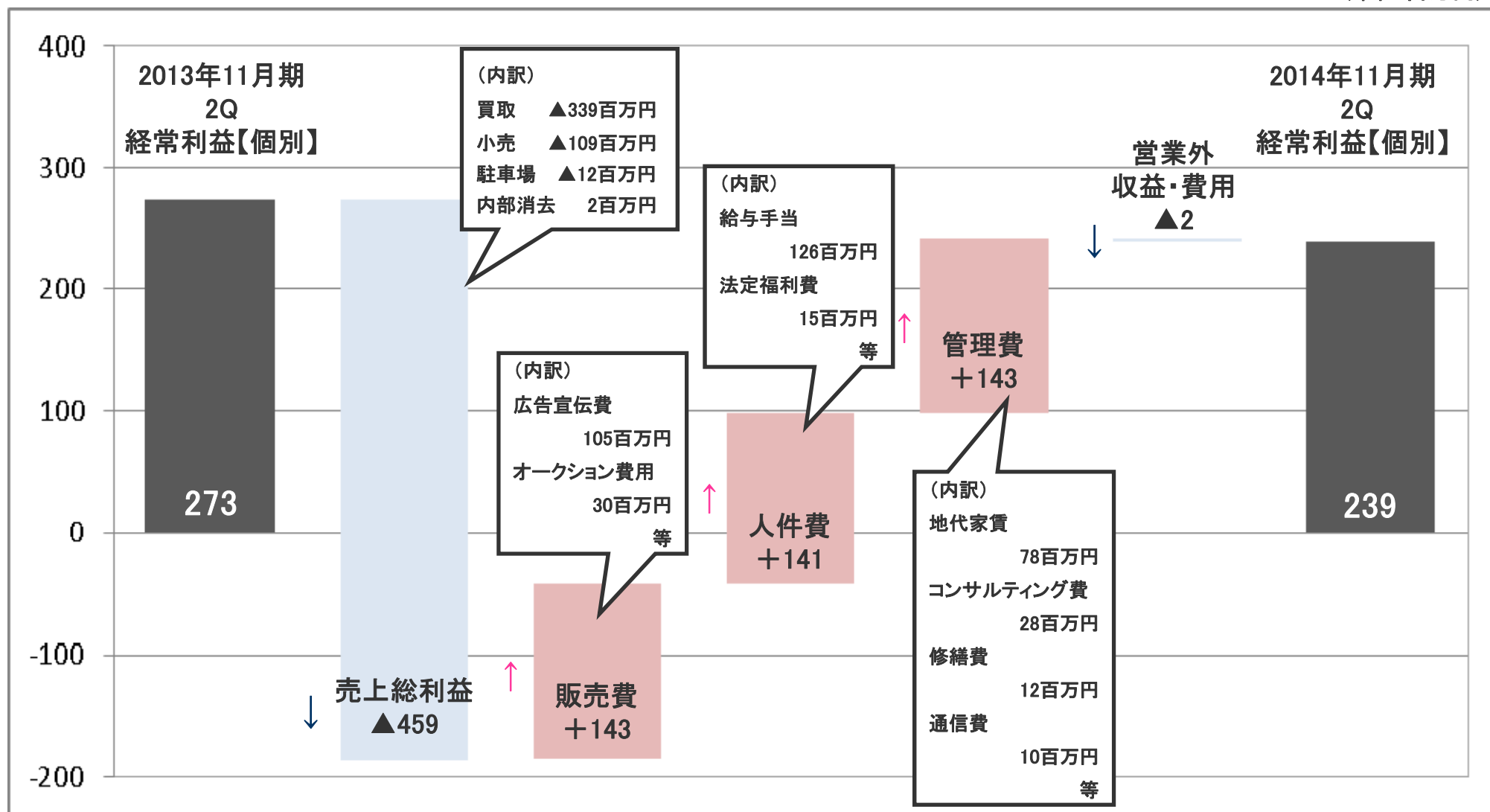
	2012年11月期 【みなし連結】(注2)				2013年11月期 【個別】				2014年11月期 【個別】	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	4,706	6,070	5,052	5,107	4,128	5,962	4,749	5,310	4,439	5,653
バイク買取事業	4,196	5,385	4,310	4,340	3,503	5,136	3,953	4,548	3,815	4,807
バイク小売事業	843	1,294	1,387	1,352	1,080	1,462	1,481	1,377	1,018	1,328
駐車場事業	167	175	179	185	177	193	201	206	194	204
内部消去(注1)	▲501	▲785	▲824	▲770	▲632	▲830	▲887	▲821	▲589	▲686
売上原価	2,227	2,650	2,410	2,434	1,973	2,478	2,143	2,663	2,283	2,630
売上総利益	2,479	3,419	2,641	2,672	2,155	3,483	2,605	2,646	2,155	3,023
販売費及び一般管理費	2,647	3,157	2,736	2,906	2,605	2,845	2,641	2,678	2,383	2,638
営業利益	▲168	262	▲95	▲233	▲449	637	▲35	▲31	▲227	384
経常利益	▲114	286	▲58	▲211	▲403	677	▲6	2	▲178	418
四半期純利益	▲87	267	▲98	▲148	▲257	405	▲16	▲37	▲115	244
売上高季節占有率	22.5%	29.0%	24.1%	24.4%	20.5%	29.6%	23.6%	26.4%	-	-
経常利益季節占有率	-	-	-	-	▲149.7%	251.0%	▲2.3%	1.0%	-	-

(注1)セグメント間取引消去

(注2)当社は2012年3月1日付で連結子会社である株式会社パーク王を吸収合併し、非連結会社へ移行しておりますが、比較可能性を担保するためパーク王1Q実績を含む【みなし連結】をご参考として記載しております。

2014年11月期第2四半期(累計) 経常利益増減分析(前年同期比)

(単位:百万円)



(注1) 販売費及び一般管理費の+(プラス)は減少(利益の増加)を意味しております。

(注2) 広告宣伝費には広告制作費、販売促進費が含まれております。



BIKE-O
&COMPANY

- 【個別】 2014年11月期 第2四半期(累計) 業績の概況
- 【セグメント別】 2014年11月期 第2四半期(累計) 業績の概況
- 【個別】 2014年11月期 第2四半期(累計) 財政状態
- 【個別】 2014年11月期 通期見通し/配当について
- 【参考資料】 今後の展開、会社概要、ビジネスモデル等
-
-

【バイク買取事業】 2014年11月期第2四半期(累計) 業績の概況

(単位:百万円)

	2013年 11月期 2Q(累計)	2014年 11月期 2Q(累計)	増減額	増減率
売上高	8,640	8,622	▲17	▲0.2%
経常利益	144	234	90	62.3%

- ・売上高は、販売台数が前年同期をやや下回ったが、平均売上単価が前年同期をやや上回ったことによりほぼ前年同期並み

- ・経常利益は、販売費及び一般管理費の抑制により前年同期を上回った

- ・平均売上単価は、オークション相場が前年同期を上回ったことに加え、高収益車両買取施策を推進し、前年同期をやや上回った

- ・平均粗利額は、ほぼ前年同期並み

販売台数 (台)	70,362	67,373	▲2,989	▲4.2%
平均売上単価 (円)	119,822	125,540	5,718	4.8%
平均粗利額 (円)	66,686	64,971	▲1,715	▲2.6%

【バイク小売事業】 2014年11月期第2四半期(累計) 業績の概況

(単位:百万円)

	2013年 11月期 2Q(累計)	2014年 11月期 2Q(累計)	増減額	増減率
売上高	2,542	2,346	▲195	▲7.7%
経常利益	110	3	▲106	▲96.9%

販売台数 (台)	4,687	4,453	▲234	▲5.0%
平均売上単価 (円)	469,330	463,164	▲6,166	▲1.3%
平均粗利額 (円)	112,992	100,719	▲12,273	▲10.9%

- ・売上高は、販売台数が前年同期を下回ったことにより減少
- ・経常利益は、販売台数が前年同期を下回るとともに、平均粗利額が前年同期を下回ったことにより減少

【駐車場事業】 2014年11月期第2四半期(累計) 業績の概況

(単位:百万円)

	2013年 11月期 2Q(累計)	2014年 11月期 2Q(累計)	増減額	増減率
売上高	371	399	27	7.5%
経常利益	18	1	▲16	▲90.3%
車室数	2,283	2,478	195	8.5%

- ・売上高は、車室数が前年同期を上回ったことにより増加
- ・経常利益は、営業力強化に向けた人員の増加により販管費が増加したことで減少



BIKE-O
&COMPANY

- 【個別】 2014年11月期 第2四半期(累計) 業績の概況
- 【セグメント別】 2014年11月期 第2四半期(累計) 業績の概況
- 【個別】 2014年11月期 第2四半期(累計) 財政状態**
- 【個別】 2014年11月期 通期見通し/配当について
- 【参考資料】 今後の展開、会社概要、ビジネスモデル等
-
-

(単位:百万円)

	2013年 11月期 期末	2014年 11月期 2Q	増減額
流動資産合計	3,946	4,208	261
現金及び預金	2,120	2,372	252
棚卸資産	1,224	1,204	▲19
固定資産合計	1,842	1,680	▲162
有形固定資産	837	808	▲28
無形固定資産	64	62	▲2
投資その他の資産	940	809	▲131
資産合計	5,789	5,888	99
流動負債合計	1,366	1,404	38
固定負債合計	288	289	0
負債合計	1,655	1,693	38
純資産合計	4,134	4,194	60
負債・純資産合計	5,789	5,888	99
株主資本比率	71.3%	71.1%	▲0.2%

増減ポイント

株主資本比率71.1%と引き続き財務の健全性維持

資産の部

《流動資産の増加 261百万円》
 現金及び預金252百万円と売掛金43百万円の増加等による

《固定資産の減少 ▲162百万円》
 敷金及び保証金等の減少等による「投資その他の資産」131百万円の減少等による

負債・純資産の部

《流動負債の増加 38百万円》
 賞与引当金43百万円の増加等による

《純資産の増加 60百万円》
 四半期純利益と株主配当による利益剰余金60百万円の増加等による

(注) 主要な科目を抜粋して表示しております。

(単位: 百万円)

	2013年11月期 第2四半期 (累計)	2014年11月期 第2四半期 (累計)
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	625	380
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲37	▲27
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲91	▲100
IV. 現金及び現金同等物の増減額	497	252
V. 現金及び現金同等物の期首残高	1,780	2,120
VI. 現金及び現金同等物の期末残高	2,277	2,372



BIKE-O
&COMPANY

- 【個別】 2014年11月期 第2四半期(累計) 業績の概況
- 【セグメント別】 2014年11月期 第2四半期(累計) 業績の概況
- 【個別】 2014年11月期 第2四半期(累計) 財政状態
- 【個別】 **2014年11月期 通期見通し/配当について**
- 【参考資料】 今後の展開、会社概要、ビジネスモデル等
-
-

■通期業績予想

(単位:百万円)

	2013年11月期 実績		2014年11月期 予想		増減額	増減率
	金額	百分比	金額	百分比		
売上高	20,150	100.0%	19,474	100.0%	▲ 676	▲ 3.4%
売上原価	9,259	45.9%	8,934	45.9%	▲ 324	▲ 3.5%
売上総利益	10,891	54.1%	10,539	54.1%	▲ 352	▲ 3.2%
販管費	10,770	53.5%	10,347	53.1%	▲ 423	▲ 3.9%
営業利益	120	0.6%	191	1.0%	70	58.7%
経常利益	269	1.3%	326	1.7%	56	20.8%
当期純利益	94	0.5%	177	0.9%	82	88.0%

■2014年11月期の取り組み

**将来的な事業規模拡大に向けた準備段階として、
事業環境に合わせた運営規模の最適化を図り、経常利益の増益を目指す**

- ・バイク買取事業において、事業環境に合わせた規模の最適化と利益の最大化を図る
- ・バイク小売事業において、事業運営基盤強化を推進し、店舗収益の安定化を図る
- ・駐車場事業において、事業地の収益改善・安定的な収益力の確保を図る
- ・全社の取り組みとして販売費及び一般管理費の抑制を継続推進する

■前提条件

- ・メインターゲットである手放し層(バイクを処分するのみ)のマーケットは縮小している可能性
- ・オークション市場の動向は前期下期と同程度の推移と想定
- ・競争を含む市場環境は大きな変化はなしと想定
- ・2014年4月の消費税増税による影響は軽微と想定

■セグメント別

(単位:百万円)

	2013年 11月期 実績	2014年 11月期 予想	増減額	増減率
バイク買取事業				
売上高	17,142	16,338	▲803	▲4.7%
経常利益	▲72	50	122	—
販売台数(台)	129,601	119,600	▲10,001	▲7.7%
平均売上単価(円)	129,608	134,400	4,792	3.7%
平均粗利額(円)	69,336	71,800	2,464	3.6%

バイク小売事業

売上高	5,401	5,844	443	8.2%
経常利益	292	250	▲42	▲14.6%
販売台数(台)	9,763	10,700	937	9.6%
平均売上単価(円)	483,096	479,400	▲3,696	▲0.8%
平均粗利額(円)	115,077	114,100	▲977	▲0.8%

駐車場事業

売上高	779	803	23	3.0%
経常利益	49	25	▲23	▲47.5%

■ 基本的な考え方

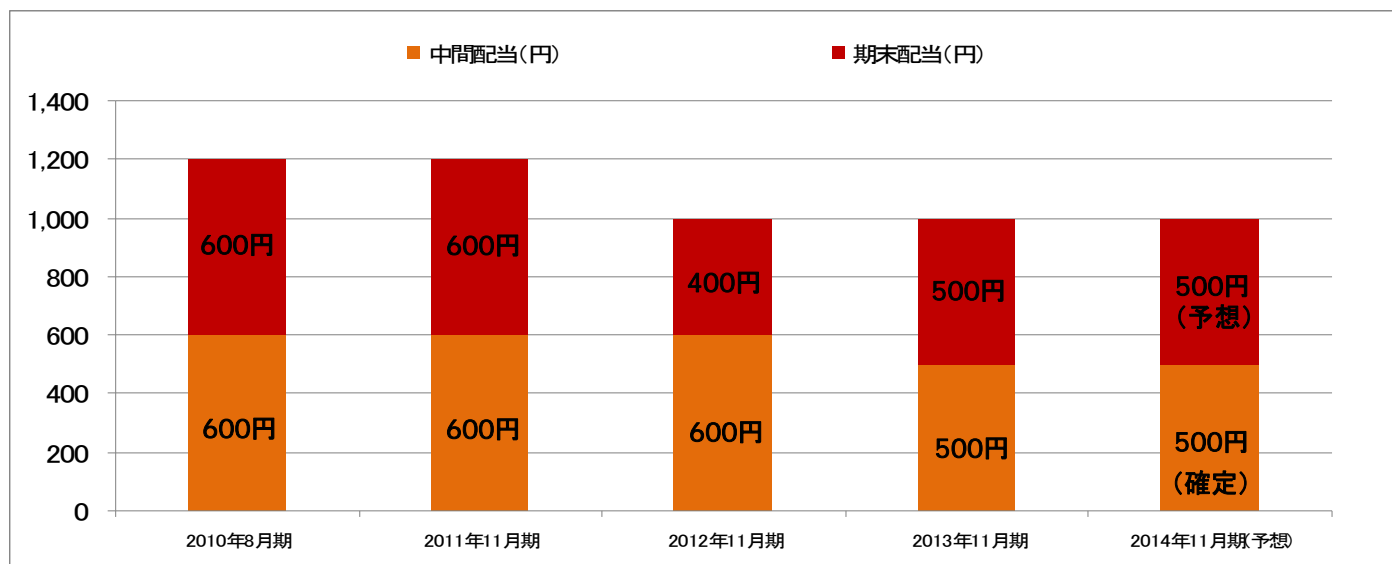
業績・事業計画等を総合的に勘案し、安定的な配当を実施

■ 1株当たり配当金額

2014年11月期中間配当(確定) 5円

2014年11月期期末配当(予想) 5円

■ 配当推移【中間・期末】 (投資単位あたり)



(注) 2010年11月期については、決算期変更(8月⇒11月)にともなう3か月決算のため、記載を省略しております(ご参考:2010年11月期 期末配当金300円)



BIKE-O
&COMPANY

- 【個別】 2014年11月期 第2四半期(累計) 業績の概況
- 【セグメント別】 2014年11月期 第2四半期(累計) 業績の概況
- 【個別】 2014年11月期 第2四半期(累計) 財政状態
- 【個別】 2014年11月期 通期見通し/配当について
- 【参考資料】 今後の展開、会社概要、ビジネスモデル等
-
-

会社概要、沿革



会社名	株式会社バイク王 &カンパニー
本社所在地	〒108-0022 東京都港区海岸3-9-15 LOOP-X 13階
事業内容	バイクの購入から売却までをトータル プロデュースする流通サービス業
設立	1998年9月(創業1994年9月)
資本金	586百万円(2014年5月末日現在)
売上高	20,150百万円(2013年11月期)
従業員数	802名(2014年5月末日現在)
役員	
代表取締役社長	石川 秋彦
取締役会長	加藤 義博
常務取締役	大谷 真樹
取締役	山縣 俊
取締役(社外)	齊藤 友嘉
常勤監査役	産形 昭夫
監査役(社外)	諏訪 浩
監査役(社外)	山口 達郎

	沿革
1994年	9月 前身となるメジャーオート(有)を設立 以後、7法人を設立
1998年	9月 (株)アイケイコーポレーションを設立 その後、グループ会社を順次統合
2002年	12月 初のロードサイド店舗「バイク王新潟店」(新潟 県新潟市)がオープン
2004年	2月 バイク王テレビCMがオンエア開始
2005年	3月 独自の基幹システム「i-kiss」が本格稼働 6月 ジャスダック証券取引所に上場 9月 初の小売販売店「i-knew」を出店
2006年	3月 駐車場事業を営む(株)パーク王を設立 8月 東京証券取引所市場第二部に上場
2008年	6月 小売販売ブランド「バイク王ダイレクトSHOP」を 立ち上げ
2009年	8月 バイク王が100店舗展開に
2010年	12月 決算期の変更(8月⇒11月)
2011年	3月 株式会社ユー・エス・エスおよび株式会社ジャパ ンバイクオークションとバイクオークション事業 に関する業務・資本提携を開始 4月 「株式会社ジャパンバイクオークション」を株式取 得(当社出資比率:30.0%)により関連会社化
2012年	3月 (株)パーク王を吸収合併 9月 商号変更(旧社名:(株)アイケイコーポレーション)
2014年	2月 東京都港区に本店を移転

■全国に広がるバイク王 &カンパニーのビジネスネットワーク (2014.7.4現在)

◆本社

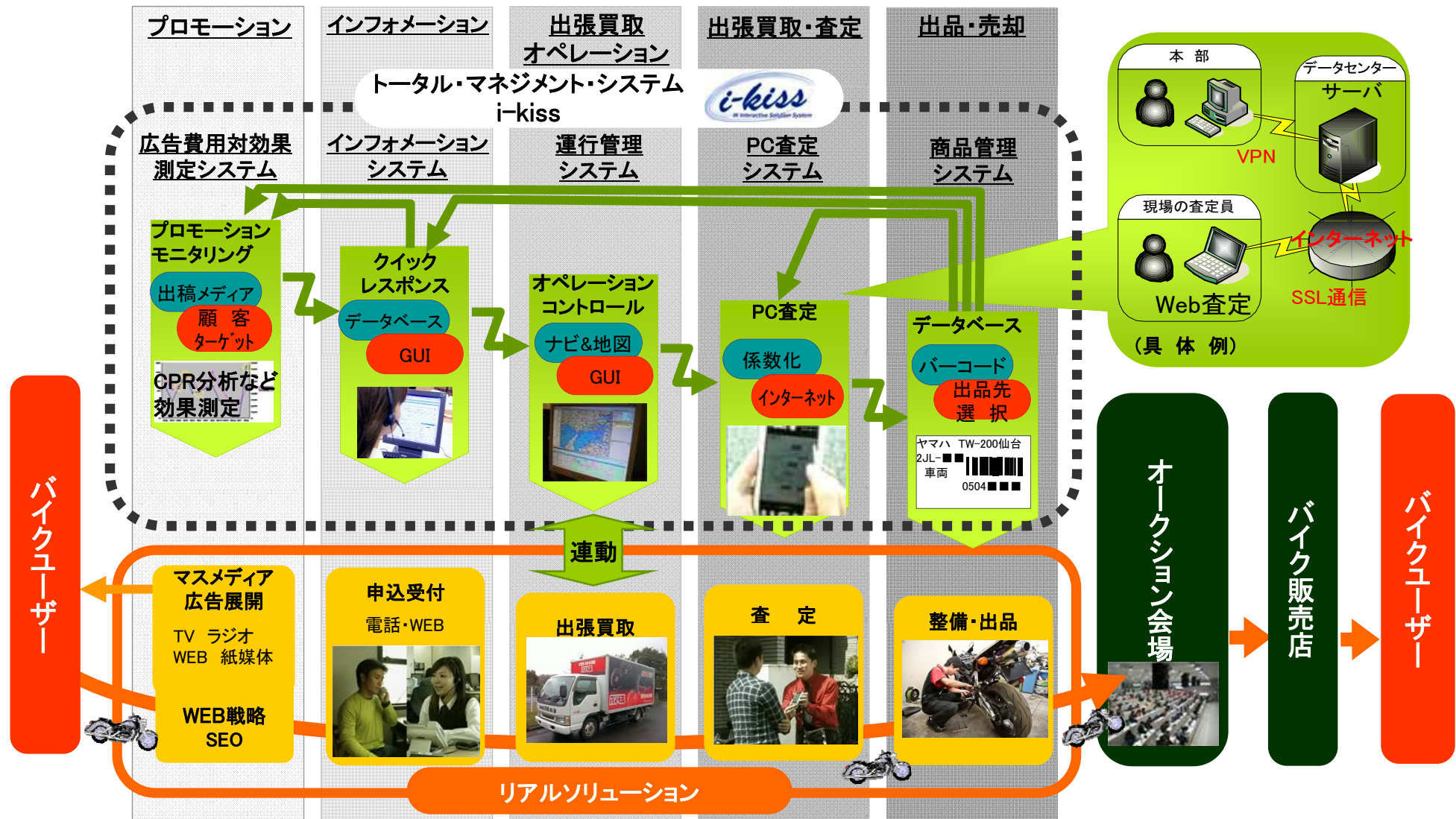
- ◆バイク買取店 バイク王 64店舗
- ◆バイク小売店 バイク王ダイレクトSHOP 11店舗

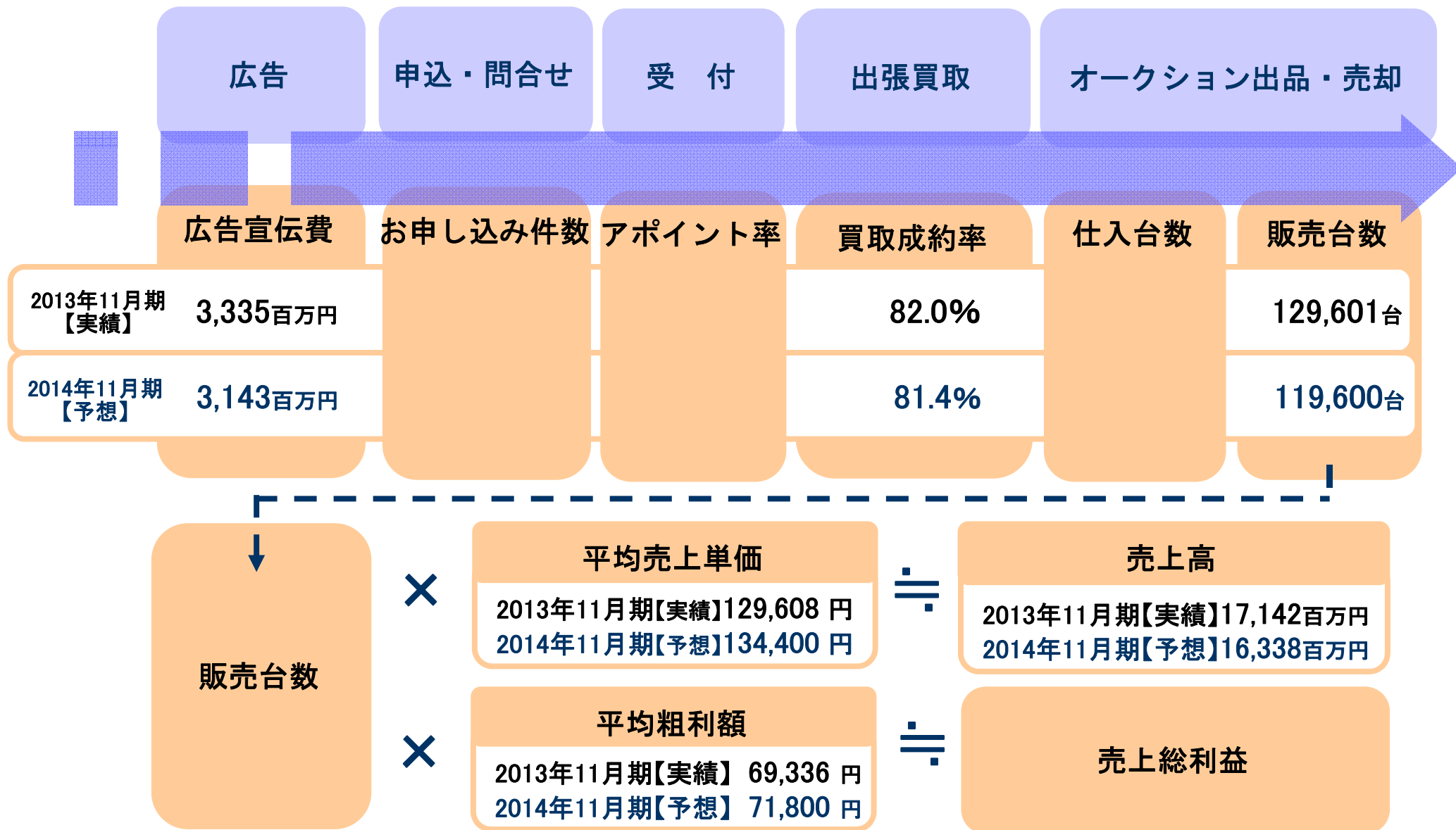
- ◆インフォメーションセンター <さいたま>
- ◆第二インフォメーションセンター <秋田>

- ◆横浜物流センター
- ◆さいたま物流センター
- ◆筑波物流センター
- ◆神戸物流センター
- ◆福岡物流センター



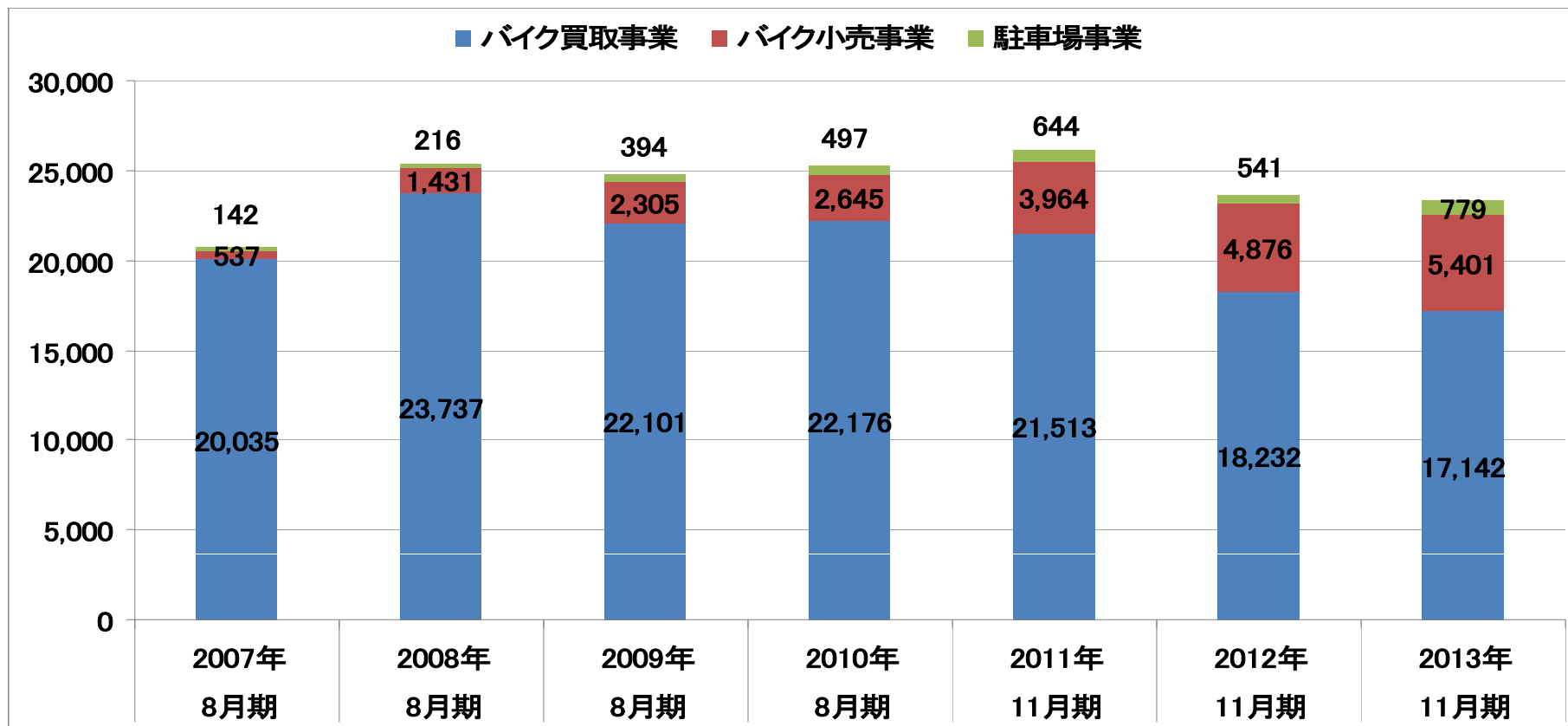
■ビジネスモデルとそれを支えるITシステム





セグメント別 売上高推移

(単位:百万円)



(注) 2010年11月期は決算期変更(8月⇒11月)にともなう3ヶ月決算のためグラフを省略しております。

マーケット環境の概要①

■ 国内保有台数は全体として微減傾向も、比較的価値の高い原付二種以上の保有台数は微増傾向

保有台数の推移

(単位:千台)

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
1 2 5 c c 以下	原付一種(～50cc)	8,134	7,902	7,694	7,448	7,154	6,899
	原付二種(51～125cc)	1,397	1,429	1,479	1,511	1,540	1,582
1 2 5 c c 超	軽二輪(126～250cc)	1,950	1,976	1,996	1,992	1,975	1,959
	小型二輪(251cc～)	1,452	1,478	1,505	1,524	1,535	1,542
合 計		12,935	12,787	12,675	12,477	12,205	11,985

(出所)一般社団法人日本自動車工業会/各年3月末日ベース

■ 125cc超の中古流通台数は概ね堅調。新車販売台数は二年連続で40万台を維持

中古流通台数の推移

(単位:千台)

		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
1 2 5 c c 以下		—	—	—	—	—	—
1 2 5 c c 超		571	558	553	541	687	670
合 計		—	—	—	—	—	—

(出所)二輪車新聞 ※2012年より小型二輪の集計方法変更

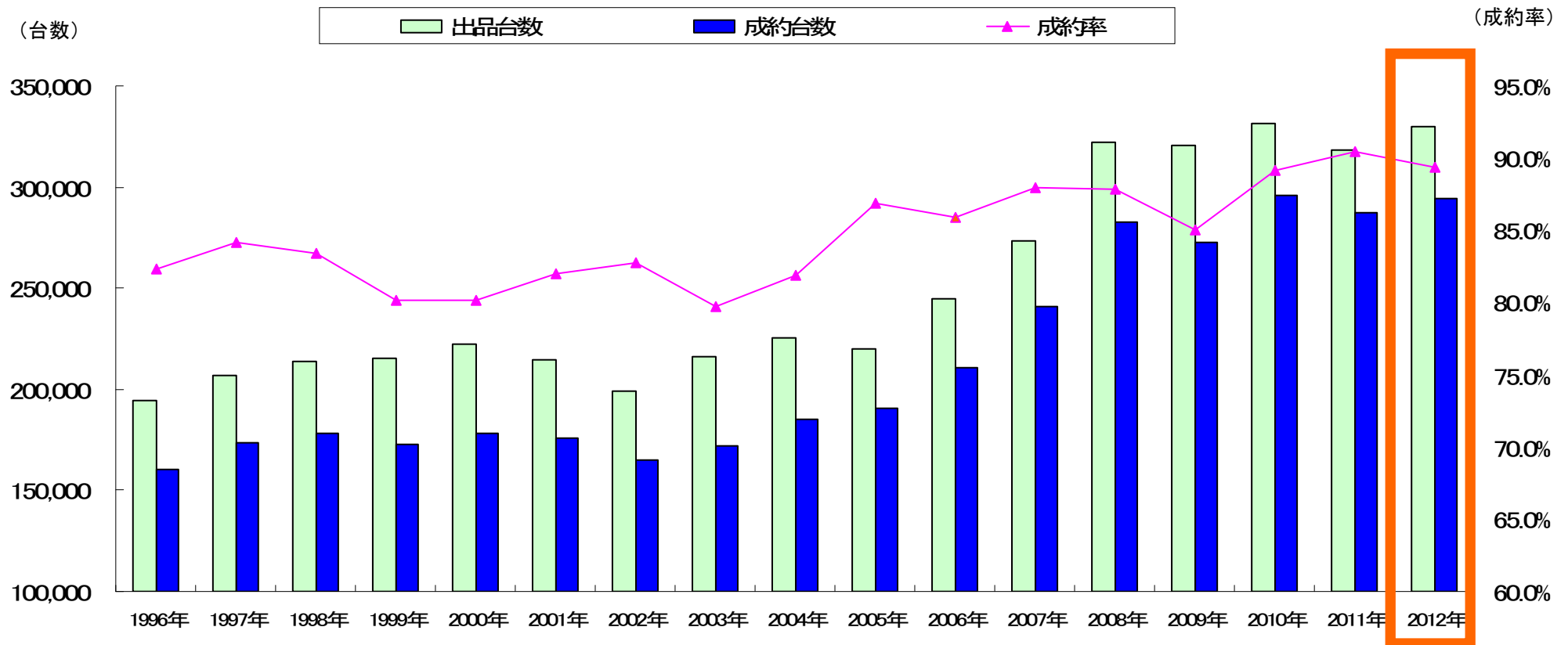
新車販売(出荷)台数の推移

(単位:千台)

		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
1 2 5 c c 以下	原付一種(～50cc)	295	255	231	257	246	238
	原付二種(51～125cc)	120	65	96	95	90	100
1 2 5 c c 超	軽二輪(126～250cc)	55	37	27	31	39	47
	小型二輪(251cc～)	49	22	25	21	25	31
合 計		522	380	380	405	401	419

(出所)一般社団法人日本自動車工業会/暦年ベース

■ 当社の主要販売先であるバイクオークション市場の動向



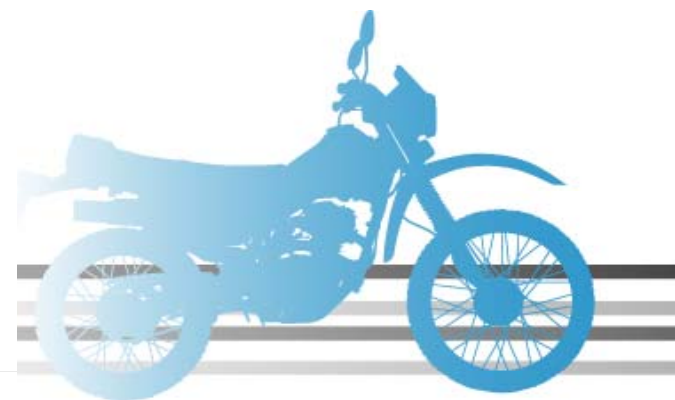
出典: 二輪車新聞 主なオークション総合統計 (注 オークネット社の実績は含まれておりません。)



本資料は、当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料の作成は正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害について、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績が言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知ください。



【連絡先】コーポレートグループ 広報IR担当

TEL: 03-6803-8855

<http://www.8190.co.jp/company/>